

トークセッション&サイン会

# 親が、大人が、 気づいて動き、変わる社会

「私は、ただただ、我が子の笑顔を再び見たかっただけなのです。  
そのための第一歩は、親が自分の持っている固定概念を捨てることから始まりました。  
子育てのアンラーニングです。」（「みいちゃんのお菓子工房」プロローグより）

滋賀の近江八幡市にある小さなパティスリー「みいちゃんのお菓子工房」。  
2020年1月、このパティスリーの店長兼パティシエになったのは、小学6年生の杉之原  
みずきさん（愛称：みいちゃん）です。

みいちゃんは、家族以外の人と話すことがとても難しく、自宅から一步外へ出た集団生活  
の場では声が出なくなり、体も自分の意思では動かなくなるという障がい（場面緘黙  
（ばめんかんもく）症、および、自閉スペクトラム症を抱えていました。

みいちゃんの母親であり、今回のスピーカー、杉之原千里さんは今年2月に発行され  
た一冊「みいちゃんのお菓子工房」という本の中で、みいちゃんが「自分らしい生き  
方」を見つけ、自分のお店を持つまでを赤裸々に綴っています。

親世代が過ごしてきた時代と、大きく異なる時代を生きる、今の子どもたち。

そんな彼らが生きていく中で抱える葛藤や苦しみ、難しさから解放され、自分らしい生き  
方を見つけるために私たち大人ができることとは？

本トークセッションでは、みいちゃんのお兄ちゃん、お姉ちゃんも含め、3人の子どもたち  
全員が不登校を経験したという杉之原さんが、親として、大人として、葛藤しながら  
彼らと向き合う上で辿り着いた「子育てのアンラーニング」についてお話いただきます。



杉之原 千里 （すぎのはら ちさと）

滋賀県在住。3人の子を持つ5人家族の母（みいちゃんの母）現役  
会社員。フルタイムで勤務しながら「みいちゃんのお菓子工房」を  
2020年1月プレオープン。本業の傍ら、ケーキ屋のオーナーとして家  
族以外とコミュニケーションが取れないみいちゃんをサポート。小学生  
でパティシエとしてお店を任せ、新聞、テレビ、雑誌、ドキュメンタリー  
など多くのメディアで紹介される。

2023年3月、みいちゃんが義務教育を卒業したのを機にグランドオー  
プン。これまでの経験を活かし若者向けの社会貢献活動も行う。企  
業や大学、自治体、教育関係者への講演実績多数。2024年6月  
「みいちゃんのお菓子工房」を開放し、子供達の学びの場としてス  
ーツキッズラボ体験事業を開始。

著書：『みいちゃんのお菓子工房』12歳のパティシエ誕生  
～子育てのアンラーニング～



大野 愛弓 （おおの あゆみ）

特定非営利活動法人VIVITA JAPAN理事。ニューヨークで過ごし  
ていた学生時代に9.11のテロを目の前で経験したことをきっかけに、  
国際関係や教育に興味を持つ。早稲田大学国際教養学部卒業  
後、インターナショナルプリスクールにてマネージャー、取締役専務を  
経験した後、2016年に現在のVIVITA JAPANに参画。  
子どもたちとの活動拠点「VIVISTOP」の企画運営をしながら、  
VIVITAの世界展開、また各国の活動をつなぐためのグローバルコ  
ミュニティ醸成に注力している。

みいちゃん  
のお菓子工房  
instagram



VIVISTOP  
金沢  
instagram

